

# 郷土資料室の「ガラケー」が教える未来：知識の詰め込みから「自立した学習者」へ

かつての最先端技術である「ガラケー」が郷土資料室に展示されるほど、技術革新のスピードは加速しています。道具が劇的に進化した今、教育もまた「正解を教える」旧来のモデルから脱却し、変化に対応できる「自立した学習者」を育てる役割へと変化しています。

## 時代と共に変わる「学び」のカタチ

### かつての最新技術は「歴史の一部」に

ガラケーや蓄音機が展示品となったように、今の道具も数年後には「昔の道具」になります。



### 「知識の伝達」から「学び方の習得」へ

答えを教える存在から、子供の探究を支える「伴走者」へと教師の役割も変化します



### 道具の進化が行動の制限をなくす

デバイス一つで世界と繋がり、いつでも自ら発信できる時代に対応した力が必要です。

## 未来を拓く「自立した学習者」の3つの力



### 問いを立て、道具を選び取る力

検索すれば答えが出るからこそ、「何を問うべきか」という課題設定能力を重視します。



### 学び方を自らデザインする力

動画や対話など、自分に合った最適な学習手段を自ら見付け出す力を養います。



### 変化を恐れず、試行錯誤を楽しむ力

特定の操作を覚えることよりも、新しい状況に柔軟に立ち向かえる精神的なたくましさを育てます。